

令和5年度社会教育主事講習カリキュラム概要

科目名	単位数	月 日	時 間	時間数	内容・テーマ	詳細	講師予定者の職・氏名
生涯学習概論	2	7/1～7/16の間	随時	1.5	生涯学習振興施策の動向	我が国の社会教育・生涯学習振興施策の動向と最新事情について理解を深める。(オンデマンド配信)	文部科学省担当官
		7/1～7/16の間	随時	1.5	社会教育行政と社会教育主事の役割	熊本県における社会教育の取り組みの方策及び主要事業の趣旨・概要について理解するとともに、社会教育主事の仕事の内容とその魅力ややりがいについて意欲を高める。(オンデマンド配信)	熊本県教育庁社会教育課
		7/1～7/16の間	随時	1.5	熊本市の公民館とまちづくり	熊本市公民館活動の取り組みにおける社会教育主事の業務や役割を理解し、社会教育主事への関心・意欲を高める。熊本市の公民館は「まちづくりセンター」と連携して地域の自治と学習支援を行っており、各館に社会教育主事を配置するなど、主事の役割は大きい。公民館活動体験の事前学習として、熊本市の公民館制度について理解を深める。(オンデマンド配信)	熊本市社会教育主事
		7/1～7/16の間	随時	1.5	南九州における社会教育の動向	九州の生涯学習社会を考えるために、学校・家庭・地域の教育状況について概観し、特に南九州に特徴的な社会教育を明確化し共有する。南九州は、中山間地と島嶼を有し、教育が地域を支えていると言ってよい地域である。本講習へ望むための我々の立ち位置である南九州の教育と地域の特色を明らかにし、学習の動機づけを行う。(オンデマンド配信)	熊本大学大学院教育学研究科教授 山城 千秋
		7/17 (月)	19:00-20:30	1.5	社会教育・生涯学習の理念	社会教育・生涯学習の理論的・実証的な視座を得るための枠組みを提示する。生涯にわたって学び続けることや、家庭、学校、地域の連携・協働の意味など、教育の本質を問う。さらに日本における先行研究、海外での研究動向、意義と課題について考察する。	熊本大学大学院教育学研究科教授 山城 千秋
		7/19 (水)	9:00-10:30	1.5	社会教育からみる子ども・若者	子ども・若者の学習や活動、専門施設は、社会教育の重要事項でありながら、教育、文化、福祉、就労などの多様な領域との関係が曖昧で、支援が経済的支援に傾倒し、主体的な参画と活動の継続性が課題とされてきた。社会教育における子ども・若者とはどのような学習者なのか、再定義を試みる。	熊本大学大学院教育学研究科教授 山城 千秋
		7/19 (水)	10:30-12:00 13:00-14:30	3.0	自治公民館の制度と機能	自治体再編など地域づくりの枠組みが大きく変容している現在、諸塚村の村づくりは行政と自治公民館が表裏一体、車の両輪として進められ、住民主体の自治公民館活動を基盤に形成されている。諸塚村の自治公民館を中心とした「諸塚方式」と呼ばれる社会教育実践に注目して、村の持続可能性を考える。	宮崎県諸塚村教育長 竹内 一久
		7/19 (水)	14:30-17:30	3.0	義務教育未修了者の学習権と夜間中学	義務教育未修了者の現状と学習権保障に関する国際法や国内法を理解し、義務教育未修了者の学習権保障にむけた自分なりの展望をもつことができることをめざす。具体的には、夜間中学をめぐる今日的動向と九州の設置動向を紹介しつつ、課題と展望を考えていく。	福岡大学人文学部教授 添田 祥史
		7/20 (木)	13:00-16:00	3.0	離島・へき地における地域の自立と教育	離島・僻地における社会教育・生涯学習の今後を展望するうえで、学校教育との適切な関係構築は欠かせない。本講義では、南九州地域の教育の歴史的特質も振り返りつつ、全国的に展開する離島・僻地における教育実践を参照しながら、南九州独自の社会教育実践の可能性を探求する。	鹿児島大学法文学部准教授 農中 至
		7/24 (月)	10:25-11:55 12:55-14:25 14:40-16:10	4.5	社会教育における問いの技法	地域の人づくり・つながりづくり・地域づくりを担う社会教育士にとって地域住民の声を聞き、解くべき課題を定めること、そして解像度の高い問いを立てることが肝要である。したがって本講義ではそのための問いの定義や問いの設計の仕方等をワークショップ形式で学ぶ。	鹿児島大学法文学部准教授 酒井 祐輔
		7/31 (月)	8:40-10:10 10:25-11:55	3.0	社会教育の歴史	「社会教育」という言葉や概念の移り変わり、「社会教育」と「生涯学習」など、関連する用語との違いを理解することをめざす。まず「社会教育」という言葉の概念を検討し、その検討に基づき、「社会教育」の歴史を古代から近代まで、学校教育の歴史と比較しながら説明する。特に近代に関しては、「社会教育」の概念の変遷、あるいは公民館、博物館、図書館の成立を説明する。	中村学園大学教育学部准教授 圓入 智仁
		8/1 (火)	12:55-14:25 14:40-16:10	3.0	社会教育・生涯学習の法と制度	戦後教育改革の一環としてつくられた社会教育制度の基本的な特色を確認する。1970年代からの生涯学習政策の普及と教育改革の動向、そして生涯学習振興整備法の設立に至る社会教育制度の揺らぎと、1990年代以降の自治体改革と社会教育再編が与えた地域構造の変革についても言及する。	名桜大学国際学群教授 嘉納 英明
		8/9 (水)	12:55-14:25	1.5	熊本大学のリカレント教育と地域貢献	熊本大学は、地域の教育及び文化の向上・発展や多様な分野における人材育成、リカレント教育などに寄与するため、本学の生涯学習機能を強化し、地域社会の発展に貢献する事業を展開している。地域に開かれた大学としての役割について紹介する。	熊本大学副学長 金岡 省吾

小 計 30.0

科目名	単位数	月 日	時 間	時間数	内容・テーマ	詳細	講師予定者の職・氏名
生涯学習支援論	2	7/18 (火)	9:00-12:00 13:00-17:00	7.0	参加型学習とファシリテーション	教育現場では、学校をはじめ地域住民、PTA、NPO、企業などが連携して、地域づくりや人づくりに貢献することが求められている。様々な学習者の特性を理解し、その特性に応じた学習支援の技術であるファシリテーションの基礎を講義とワークショップを通じて体感し、体系的に理解する。	加留部貴行事務所AN-BAI 代表 加留部 貴行
		7/20 (木)	9:00-12:00	3.0	生涯スポーツ・レクリエーション	体育・レクリエーションの意義や効果について理解を深め、生涯スポーツとして行われている体操・ダンス等を例に、実習を通して教材や指導法の留意点を理解し、社会体育の指導に生かすことができるようにする。	熊本大学大学院教育学研究科教授 坂下 玲子
		7/21 (金)	9:00-12:00	3.0	学習支援の理論と実践	ボランティア活動における学習支援の理論と実践を考える。社会教育の学びは、その多くがボランティアによって支えられており、その歴史を紐解き、時代とともに変容したボランティア観を理解する。そして、活動参加へ導く支援方法などを検討し今後の教育活動の発展に役立てる力を養う。	日本文理大学人間力育成センター長 高見 大介
		7/25 (火)	16:25-17:55	1.5	学習プログラムの編成	プログラム企画の事前・事後の手順を理解して、学習プログラムを立案する。そのために、地域のニーズ、課題を析出し、課題を解決するアイデアを出し合い、形にしていけるプロセスが重要となる。こうした一連の作業を通して、実際の社会教育現場で生かせるノウハウを習得する。	那覇市立若狭公民館館長 宮城 潤
		8/1 (火)	8:40-10:10 10:25-11:55	3.0	多様化する家庭と子ども支援	家族の多様化に伴う家族支援の必要性について理解を深めるとともに、社会教育として子育て家族への支援の必要性を論じる。さらに、子ども食堂の実践事例から、地域においてどのような家族支援が求められ、社会教育がどのような力を発揮できるのかを探る。	熊本大学大学院教育学研究科准教授 藤井 美保
		8/2 (水)	8:40-10:10 10:25-11:55	3.0	障害者の学びと生涯学習支援	障害者の学びは、学校教育を卒業したあとと、労働の場や地域社会においてどのように保障すべきか、基本的視座を提起する。障害者を支援の対象とみなすのではなく、ともに生き支え合える社会の実現に向けて、事例等やグループワークを通して考察する。	熊本大学大学院教育学研究科准教授 黒山 竜太
		8/2 (水)	12:55-14:25 14:40-16:10	3.0	外国人の学習支援ネットワークの形成	南九州地域における外国人への学習支援の現状について、鹿児島県のNGOの日本語教室や外国ルーツの子どもの学習支援等の事例をもとに考え理解する。また、外国人への学習支援のネットワーク形成の可能性と課題を探り、社会教育の役割について考える。	鹿児島大学非常勤講師 山下 直子
		8/3 (木)	8:40-10:10 10:25-11:55	3.0	ものづくり教育における学習支援と技能	ものづくりの教育的意義と現状を解説し、環境を守り、木の文化を伝え、暮らしや子どもの心を豊かにする「木育」への理解を深め、実際に木工作品をつくることを通して、ものづくり教育の本質を理解し、指導上の留意点などを理解する。	熊本大学大学院教育学研究科教授 田口 浩継
		8/4 (金)	12:55-14:25	1.5	中高生の主体性を育む学習支援	中高生が主体性をもって、つくりたい未来に向けて探究し行動を起こしていけるよう、伴走型サポートを行う全国高校生マイプロジェクトの取り組みを紹介し、中高生の自律的で他者との協働を生み出す活動を地域社会の変革へと結びつける学習支援の方策を提案する。	全国高校生マイプロジェクト熊本県事務局 井下 友梨花
		8/7 (月)	8:40-10:10 10:25-11:55	3.0	ICTを活用した深い学びと地域づくりの実践	ICTの活用の「いま」と「未来」について、宮崎県における実践事例の紹介を交えながら、ICTを活用した学びの体験ワークを通して、協働的・対話的な学びの成果を地域づくりに活かしていく方途を検討する。	宮崎県教育庁高等教育課指導主事 上水 陽一

小 計 31.0

科目名	単位数	月 日	時 間	時間数	内容・テーマ	詳細	講師予定者の職・氏名
社会教育経営論	2	7/17 (月)	15:00-18:00	3.0	青少年教育施設の計画と運営	青少年の成長に不可欠な学びの機会である野外体験活動について、基礎的な知識とユースワーク、技術の習得をめざす。仲間づくり、共同作業の体験活動として、野外炊事にグループで取り組み、体験活動の意義を理解する。	国立阿蘇青少年交流の家
		7/21 (金)	13:00-16:00	3.0	災害教育と地域マネジメント	自然災害時に必要とされる避難所運営や災害ボランティア、関係団体とのネットワーク構築などについて理解し、復旧復興過程における自治・自立的な活動事例から、適切な地域マネジメントの方法を提案する。	東海大学文理融合学部准教授 安部 美和
		7/25 (火)	8:40-10:10 10:25-11:55	3.0	社会教育行政の戦略と経営	大都市や広域連携、学校区における地域組織や社会教育関係団体などの地域の特性を捉えた上で、自治や民主主義を踏まえ、社会教育行政と地域活性化、社会行政の経営戦略、社会教育を推進する地域ネットワークの形成などについて理解を深める。	北九州市立大学文学部教授 恒吉 紀寿
		7/25 (火)	12:55-14:25 14:40-16:10	3.0	公民館の経営と学習成果	那覇市若狭公民館の取組事例紹介と沖縄県公立公民館調査から見えてきた公民館の現状と課題について考える。また、地域の実態把握から地域課題やニーズの仮説を立て解決に向けて取り組むためのロジックモデル作成の手法について知る。	那覇市立若狭公民館館長 宮城 潤
		7/26 (水)	10:25-11:55 12:55-14:25	3.0	社会教育における連携と協働	社会教育における連携と協働の原理・原則を歴史におさえ、今日の時代状況を読み解く。そのうえで、昨今の政策動向と現場を事例をとりあげながら、社会教育主事として求められる連携・協働のあり方について考察する。	鹿児島大学法文学部准教授 小栗 有子
		7/31 (月)	12:55-14:25	1.5	地域のネットワーク形成と社会教育	家庭・学校・地域との連携・協働をはじめ、福祉、働き方、環境、防犯や防災など様々な地域課題解決に関して、自治体や学校、企業、NPOなどの各種ステークホルダーとの連携・協働を図るために必要なプレゼンテーション・ファシリテーション・コーディネート能力を身につける。	熊本大学大学院先端科学研究部准教授 田中 尚人 西米良集落支援従事者 富井 俊
		7/31 (月)	14:40-16:10	1.5	社会教育の経営・広報戦略	社会教育計画の企画・立案・運営を、持続可能なPDCAサイクルを回すことで、参加者とともに行う評価や改善にも結び付けられるよう、参加型のプロジェクトマネジメント技術・シビックプライドを涵養し、社会教育の意義をPRする力を身につける。	熊本大学大学院先端科学研究部准教授 田中 尚人 エンコミュニティラボ代表 山中 はるな
		8/3 (木)	12:55-14:25 14:40-16:10	3.0	町内会・自治会経営の技法	近年、地域住民の自治活動を支えてきた町内会や自治会の加入率の減少や高齢化が社会問題となっている。本講義では、住民自治活動の重要性を改めて再認識しつつ、多世代が参加・参画しやすくする新たな技法について学習する。	鹿児島大学法文学部准教授 金子 満
		8/4 (金)	8:40-10:10 10:25-11:55	3.0	地域博物館の理念と運営	人口約17,000人の御船町の恐竜博物館は、小規模自治体の地域志向型博物館の代表である。御船町から出土する恐竜の化石をメインとする同博物館は、展示や活動体験を通して、自ら学習・発展させていく教育事業を重視し世界的な研究交流も含め、地域博物館の理念と運営、その可能性について考察する。	御船町恐竜博物館学芸員 富澤 由規子
		8/7 (月)	12:55-14:25 14:40-16:10	3.0	女性の学習とエンパワーメント	働きづらさ・生きづらさを抱える女性労働者、とりわけシングルの非正規雇用に焦点をあて、貧困と孤立の隣り合わせにいる彼女たちの現状を知り、求められる支援について学ぶ。また、女性が学ぶことによってエンパワーメントを高め、課題を克服できるような社会教育のしくみとネットワーク形成を模索する。	福岡女子大学国際文学部教授 野依 智子
		8/8 (火)	12:55-14:25 14:40-16:10	3.0	自治体経営と社会教育行政	信州・松本市や飯田市、阿智村では、社会教育主事を発令し、その職務が自治体経営に還っていくという信州型の仕組みがある。社会教育の振興と自治体の持続可能性を同義と捉える信州の実践から、南九州の社会教育と自治体経営の実際との比較検討を行い、社会教育行政の普遍的な役割とは何か、再点検する。	松本大学総合経営学部准教授 向井 健

小 計 30.0

科目名	単位数	月 日	時 間	時間数	内容・テーマ	詳細	講師予定者の職・氏名
社会教育演習	2	7/18 (火)	19:30-21:00	1.5	演習1	研究レポートのテーマ設定、情報収集、執筆方法という一連の作業について概説し、本講習での学びをアウトプットするためのレポートをイメージするためのグループワークを行い、受講者全体で目標の共有を図る。	熊本大学大学院教育学研究科教授 山城 千秋
		7/19 (水)	19:30-21:00	1.5	演習2	夜間中学・学習する権利の剥夺状況に対応する国内の動向に関する講義内容を個別／グループで振り返り、自分の問題意識についてグループワークを通じて相互交流することで、社会教育を考える際の基本的な視点を各人が深めることのできる演習を実施する。	福岡大学人文学部教授 添田 祥史
		7/20 (木)	16:00-17:30	1.5	演習3	本講習を受講した理由・動機から、研究レポートの問いを温めるグループワークを実施する。特に講習三日目に入った時点での中間まとめも意図しながら、最終レポートの作成に向けた各人の課題意識を深め、受講生の地域間・業種間交流も意識した演習とする。目標とする成果物は、各人の課題意識が明確となる小レポートである。	鹿児島大学法文学部准教授 農中 至
		7/26 (水)	8:40-10:10	1.5	現地研修事前指導	現地研修の目的・目標を確認し、受け入れ自治体に関する情報と社会教育・生涯学習事業、日程等について事前学習を行う。	熊本大学大学院教育学研究科教授 山城 千秋
		7/26 (水)	14:40-16:10	1.5	演習4	講習二週目の全体的な振り返りも意識し、学校と地域の連携・協働および社会教育と学校教育の協働形成の課題に関する講義を振り返り、社会教育における基本的な視点(住民自治と住民主体の考え)を踏まえた、学校・地域連携促進の諸課題について自覚できるようになることを目指す演習とする。それらが十分に研究レポートの問いに反映できるようなグループワークを実施する。	鹿児島大学法文学部准教授 小栗 有子
		7/27 (木)	14:00-17:00 19:00-21:00	5.0	現地研修	熊本・大分・宮崎・鹿児島各県の自治体社会教育の実態を理解する研修を実施する。教育委員会を中心に、社会教育・生涯学習事業の展開、社会教育施設の見学など、受け入れ自治体の特色ある社会教育実践に学び、社会教育主事の役割や専門職性を理解する。	各県社会教育施設の社会教育主事等(4自治体)
		7/28 (金)	9:00-12:00 13:00-17:00	7.0			
		7/29 (土)	9:00-12:00	3.0			
		7/31 (月)	16:25-17:55	1.5	演習5	この時点でまでの講習の内容の振り返りをおこなうことを前提にしながら、自身が作成する研究レポートの問いが論理的に組み立てられ、一定の結論を明示し、相手を説得するプロセスとなっているか、確認作業(グループワーク・個人作業)と質疑応答(個別指導・集団指導)を行い、レポートの見直しと修正を行う。	熊本大学大学院教育学研究科教授 山城 千秋
		8/5 (土)	9:00-12:00 13:00-16:00	6.0	公民館活動体験	社会教育主事の専門職性を理解するための体験活動を行う。熊本市内の公立公民館に配属される社会教育主事の指導の下、公民館講座の実施、関係団体との連絡調整、他部局との連携など、主事の一日の業務について体験を通して理解を深める。	熊本市内公民館の社会教育主事等(6館)
		8/9 (水)	8:40-10:10 10:25-11:55	3.0	学習成果交流会	本講習の学習成果を踏まえた研究レポートを口頭発表し、受講生全体で共有を図る。	熊本大学大学院教育学研究科教授 山城 千秋 熊本大学大学院教育学研究科教授 坂下 玲子

小 計 33.0